

第17回「女と男の一行詩」入賞作品紹介！

「女(ひと)と男(ひと)の一行詩」とは、形式のない川柳のようなものです。
「男性の家庭や地域への参画」「女性活躍」「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」など
男女共同参画をテーマに家庭や地域、学校や職場で感じる思いを募集しました。
今回は、589作品のご応募をいただき、
市民等による一般投票と選考委員による審査の結果、入賞6作品が決定しました。

パパの育休「いいパパね」 私がついたら「また休み？」 **最優秀賞**

●受賞コメント●

藤嶋 杏怜さん (高校生)

将来、子どもが生まれた時に、
女性も働きやすい環境をつくってほしい
という想いを込めました。

個人の差、男女の差、あるのが当然
できることからお互いに

清重 恵美さん (一般)



男も女も大事なことは
感謝の気持ちと 思いやり

斉藤 なつみさん (高校生)

認め合う それが男女 それが人間

宮本 尚弥さん (高校生)



ばばとママ 「2人」で僕を 育ててね♡

藤澤 優さん (高校生)

女社会 仕事は増えても 家事減らず

山田 愛華さん (高校生)



… **講評** … 「女(ひと)と男(ひと)の一行詩」 選考委員長 岡 庭 義 行 (帯広大谷短期大学副学長)

今年度は帯広市の男女共同参画に新しい変化が訪れていることを感じさせる選考となりました。経験や事実を作品の素材にするだけでなく、次世代の想像力や着眼・着想などが選者の心を掴んだ作品が多く寄せられました。

最優秀賞作品は「育休」が浸透する一方でその取得の難しさを感じさせてくれるものでしたが、何よりも自身の将来をイメージして詠んだ点が注目されました。優秀賞の2作品は、一人ひとりの違いを認めあい、やさしさをもって取り組んでいくことの大切さを語りかけてくれる作品でした。入選の3作品は、若い世代が今の社会をどのように感じているのかについて考えさせられるものでした。

また、次の2作品も選考の過程で大きく注目されました。「共働きなら『手伝うよ』じゃなく『俺やるよ』」「ゴミを投げ、パソコンを打つ 私の母は 二刀流」。これらの作品の観点には、さまざまな生きにくさが内在する日々の生活の中で、互いに支えあいながら生きる人々を応援し笑顔にする力が内包されているものと思います。

皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

〒080-8670

帯広市西5条南7丁目 帯広市役所 男女共同参画推進課

電話：0155-65-4134 FAX：0155-23-0171

電子メール danjyo@city.obihiro.hokkaido.jp

平成31年2月発行

●発行：帯広市

●企画・編集：帯広市男女共同参画推進員

池田 淳一・池添 博彦・伊藤 容子

遠藤 妙子・川尻れえ子・田沼 誠子

沼田 秀美・品田 裕子